

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：合意形成	
日付：11月1日（土）曜日、セッション時間：16:45～18:15	
司会者：寺部慎太郎（東京理科大学）	
討 議 内 容	セッション全体：全体討議の時間はありませんでした。
	(28) 榊原弘之（山口大学）： 第2ゲームでの既得権は実験参加者が認識できるようになっているのか？ 実験参加者はお互いに面識があるのか？ ほとんどない。 実験参加者が実験後に相手に対して不満を言ったり，事前に実験後のことを打ち合わせていたりしたことは観察されたか？ ほとんどなかった。 ゲームの時間制限は設けたか？ 設けた。概ね30分くらいで一連のゲームは終わった。 余分なカードの果たす役割は？ 初めのうちは手の内を明かさないので，どのカードを持っているかが相手にはわからなくするためである。
	(29) 荒井祥郎（財団法人計量計画研究所）： A, B に比べて C のシナリオは市民の反応が強く出ているのでややバイアスがかかっているのではないか。 不信感をもともと強く抱いている人は，合理的なプロセスのルールを事前に知ったとしても，不信や不安を容易に払拭できないというのはとても興味深い知見である。 （研究内容に直接関連しないが）構想段階の後の都市計画の段階から PI を評価することは可能だと思う。 住民の評価は，事業の種類や立地にも依存しているだろう。現時点ではそこまで詳しく地域別に分析はしていない。
	(30) 石神孝裕（財団法人計量計画研究所）： 見直しの発議の際の工夫はあるか？ 特にない。取り上げた事例はすでに上位の委員会で見直すことが決まっていた。 見直しをする際のプロセスに特徴はあるか？ ステップを区切るなど，道路の構想段階のプロセスと同じである。 地方部の現道や城下町宿場町内の都計道路は見直しの合意が取れやすいだろうが，都市部のものは難しい。 どのようなアプローチがよいかといった点への示唆はあるか？ 見直しの目的から共有することは重要である。またネットワーク計画と個別の見直しを分けて扱うことも重要である。その場合は，前者も PI 型でやることが重要であるし，TDM など別の手段の検討も含めることができる。 米国には 53 条規制に相当するものはあるのか？ ある。Project Development 段階で right of way を設定する。